

誰もが楽しい世界へ

筑邦西中学校 三年

私がこのジャンルの作文を書こうと思ったきっかけは、私自身が生まれつき肢体不自由であることによって「助かった事、うれしかったこと」また「苦しかったこと、辛いと思ったこと」など、障害者だからこそ皆さんに伝えられることがあるのではないかと考えたからです。

現在、世界には約十億人、日本では国民の七・四パーセントの人が何らかの障害を抱え増加傾向にあるそうです。そして今いろんなところでバリアフリー化が進んでいて住みやすくなっています。ですが障害者の方が本当の意味で生きやすくなるには周りの人の関わり方や凝り固まった考え方を変え、色々なことに取り組むことが大切だと思います。私は学校の先生や家族、ソーシャルワーカーさんなどたくさんの方々の協力を得て、いまは色々なことに前向きに取り組めるようになりました。けれどそれまでの私は何に対しても後向きにしか捉えることができず、今以上に自

分のことが嫌いで他人の目をすごく気にする生活でした。だけど家族と一緒に色んなところに出て、いろんな人に会う度にみんな自分が暮らしやすくなるために自分の身の回りからどんどん変えながらたくさん努力をしているんだと知り、元気をもらうことができました。障害者だと大変なことはたくさんありますが自分だけが苦しい訳じゃないと思うと頑張ろうってなるし、学校などで特支クラスのお友達のお手伝いをしたりすることで自分にも相手にもいい影響をもたらしているよと聞くととても嬉しい気持ちになります。

これからも、自分が持っている今の関係や出会いを大切にし、自分に出来ることをたくさん見つけ、クリアしていきたいと思います。そして障害を持っていると何でもかんでもハンデがあるように感じてしまうと思います。だけど自分なりにそのハンデを取り除いて、一生付き合う車椅子生活を楽しんで充実出来るようにしていきたいと思います。そして大人になっていく中で、自分と同じような事で困っていたり、苦しんでいる人を自分と同じように元気にしていけたらいいなと思います。

この作文を通して、まだまだ全部のところにバリアフリーが対応している訳では無いけど障害を持っている方に会ったときの対応とかで、今以上に優しい世界になればみんなが暮らしやすい世界になるのではないかと思います。そこで一番伝えたい事は、障害を持っている方でも障害を持っていない方と何も変わらないということを大事にしてくれる世界になればいいなと思います。